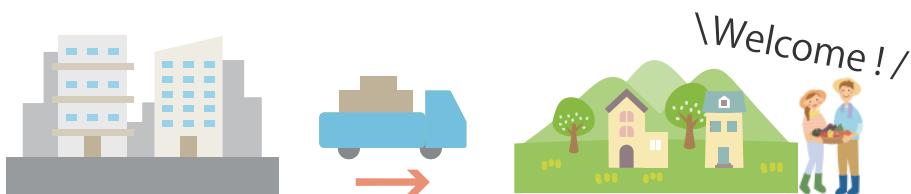


「地域おこし協力隊」とは?

地域おこし協力隊は、都市地域から人口減少や高齢化等の進行が著しい地域に移住して、地域おこし支援や地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る総務省が推進する取り組みです。



川西町の地域おこし協力隊

平成23年度から取り組み、延べ**31名**が
川西町地域おこし協力隊として、町内で活動しました。

退任後そのまま町内に定住した隊員は**10名**います。
※令和5年1月現在

川西町では、隊員のスキルアップを目的とした支援のほか、
任期後には起業や定住に向けた支援もあります。



令和4年度は、農業研修生が1名、食文化プロモーション担当が1名、遼筆堂文庫研究員が2名、スポーツ活動支援員が1名、果樹農業研修生が1名の計**6名**が活動しました。

この冊子では、そのうち3名の隊員の活動を紹介します。



遼筆堂文庫研究員

町出身の作家・劇作家である故井上ひさし氏の蔵書を収めた「遼筆堂文庫」の普及事業と調査研究を行います。



スポーツ活動支援員

地域のスポーツ活動の支援のほか、町民体育館の運営補助、子供向けのからだづくり教室などを行います。



果樹農業研修生

さくらんぼ、桃などの果樹や、枝豆、水稻などの栽培の研修を行います。

任期:2021年4月～継続中

出身:札幌市(岩手県盛岡市生まれ)

ほぼ40年札幌に住んでからの

東北人復帰。川西に移住二年目。

趣味:犬を散歩し、非番の日はジョギング。

歩道が除雪されない。車は平気で

水をかける。その水が氷る。

\ひとことコメント/

ゴミ袋に名前を書くのはプライバシーの観点から問題と思う。



主な活動内容

遅筆堂文庫において、井上ひさしに関わる研究・調査。

- ・井上ひさしの著作および関連文献のデータを網羅することが主。
- ・井上ひさし研究会などを通じて彼の作品をひろめる宣伝活動。
- ・遅筆堂文庫展示補助・図書館業務補助
- ・川西町地域振興拠点施設整備町民ワークショップへの参加(4月～11月)

井上ひさしとロシア

引っ越して最初に、ロシア語ラジオ講座テキスト四月号を探すも米沢市内に一冊もなかった。昨年度、まるで鎖国気分のジレンマで行ったチェーホフ全集の書き込みについての調査は、河北新報を皮切りに、共同通信配信記事となり、全国の地方紙に多く掲載されたのだが。

救いは、フレンドリープラザを拠点に読書会を行っているグループ「本とコーヒーのおいしいプロジェクト」からの誘いだった。結果「ロシア文学超入門」「ロシア人と日本人」の二回のトークを経て、とりあえずのゴールは井上ひさしにとってのロシア文学について、である。山形以北がソ連支配となったという設定の『一分ノ一』や、シベリア抑留を扱った『一週間』など、彼の作品は、国境のみならず、経済も、生活も、人性も分断されているこんにちこそ読まれるべきである。

その数ヶ月の企画は二つの果実をもたらした。ひとつは「神奈川大学評論」第101号掲載の『井上ひさしのロシア』の素材となったこと。二つ目はグループの皆さんとともに、二回にわたるロシア料理を作る集いに参加できたこと。見たこともない、食べたこともない料理を本場もの以上に仕上げた皆さんにスパシーボ！

遅筆堂文庫堂則には、この町を、そしてこの施設を世界にひらかれた場所にするのだ、という井上ひさしの理想が書かれている。さて、その遺志をわれわれはどれほど受け継ぐことができているか。

▶ ルーツはウクライナだが「ロシア料理」の代表、ボルシチ。すなわち料理に国境はない。材料となるビーツは森のマルシェで川西町産のものを見つけることができる。



書庫にこもって

遅筆堂文庫における展示を手掛けることになった。この時に学んで得たものはとても大きく、感謝している。「井上ひさしと手紙」「井上ひさしと映画」の二回。いずれも彼の創作活動を俯瞰するうえで極めて重大な主題である。ギャラリートーク「井上ひさしが考えた手紙の効用」(9月3日)では、実はこの4月の吉里吉里忌のゲスト、小泉今日子の『十二人の手紙』書評について述べ、布石を打ったのだが、気付いた人はいるかなあ。

昨年度末に、一年目の成果である『井上ひさし著作目録 基本編』を刊行し、現在その続編を準備している。今度は小説と戯曲以外の全ての文章、すなわちエッセイ、パロディものなどから広告、本の帯やパンフレットの推薦文などを並べる。私の調査によれば、このようないわゆる雑文は3000弱。つまり未発見のものを加えてもたぶん3100件には届かないだろうというところまで詰めることができた。このことに何の意義があるかはわからない。



▲ 展示は一般の方々に井上ひさしを紹介することが第一義なのだが、それだけではない。毎回、実は「専門家」向けの新発見・新解釈がしのばせてある。これを長年続けてきた先人たちに頭が下がる。

ひろめる

今年度、こうして集まった資料をもとに、私が関係して出版にまで至った井上ひさし著作は、四点五冊になった。『井上ひさし発掘エッセイ・セレクションII』全三冊岩波書店刊と小説『熱風至る』全二冊幻戯書房刊。いずれも山形県内の書店には一軒にしか並ばない。これらの刊行の意義を京都新聞8月12日付に書いた（「井上ひさしの描く京と幕末」）。地元には知られず、まるで深海魚のようだ。

TUY 「どすコイやまがた」7月13日放映ぶんに珍獣扱いで出演し、恥をかく。

山形新聞元旦版にはインタビュー記事、そして1月29日に書評「実験的表現に挑んだ戯曲」が同紙に掲載された。しかし、これらは私は直接関わらなかった戯曲『うま』刊行に関してのものだった。

1月24日には同じく山形新聞にて「地域おこし隊員奮闘中」シリーズでの掲載となる。この連載の基本的コンセプトは地域おこし隊員がいかに地元に溶け込んでいるか、というものなので、私も記者もとても困ってしまった。

所詮異邦人なので、馴染むということは諦めている。違和感のままに生活する。ワークショップへ参加するものの、彼我のあまりの発想の違いに無力感が漂った。「地域おこし」

「興す」ためには地域に妥協屈服せず折伏されず、逆に「起こす」覚醒の刺激となる、と開き直るしかない。

以上悪口だらけ御免。



▲ 期せずして、2022年は「井上ひさし発掘」の年となった。



任期:2022年4月～継続中

出身:山形県東根市

趣味:スポーツ・山菜取り

座右の銘:塞翁が馬

ひとことコメント/

新米の美味しさに驚きました。
山菜はコシアブラが一番好きです！



主な活動内容

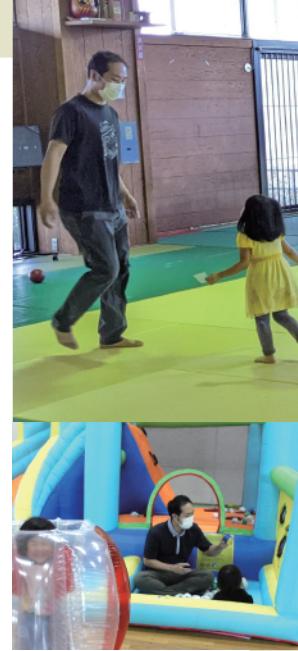
- ・川西町民総合体育館施設管理 事務業務
- ・スポーツかわにし 事務業務 各教室の補助
- ・エフエムNCVラジオ デタアコ協力隊出演
- ・すくすく広場
- ・ニュースポーツの普及

すくすく広場の開催

「子どもの遊び場が少ない」という声が多く感じたので、安全に運動をして欲しいという思いで開催しています。

3歳から5歳の未就学児を対象に、跳ぶ・走る・投げる・蹴る等の運動が出来る様に遊具を柔剣道場に設置し、あえて最低限のルールの中、自由な発想でからだを動かしています。畳の上なので転倒による怪我の心配も少なく安心して楽しんでいます。

- ◀ すくすく広場チラシ
- ▶ すくすく広場の様子



体育館事務受付・備品整理

日々の活動として、体育館使用予約等の事務業務や備品の点検・整備をしています。

ボッチャやモルック等、スポーツ用具の貸出し時と返却時に故障や不足がないか確認し、壊れているものがあれば補修も行っています。

管理しやすい様、収納スペースを整理整頓し貸出し用の用具のリストを作成しました。



▲ 降雪前のホッケー場のネット上げ



スポーツ教室の補助・事務業務

総合型スポーツクラブである「スポーツかわにし」ではスポーツに親しみのない方々をいかに誘い、スポーツ活動への実践につなげるかを目標に取組んでいます。介護予防普及啓発の一環として座って出来る程度の軽い運動や脳トレをする教室「さらに元気アップ教室」や、年間を通じて多種目のスポーツを楽しんで貰い自分の好きなスポーツを探すことを主旨とした教室「らく楽スポーツ教室」を行っています。

◀ 「さらに元気アップ教室」でのbingoボードゲーム



▲ ニュースポーツ「モルック」の普及活動

▶ 小松小学校での出前講座

活動を通しての感想・今後の展望

スポーツ協会として体育館管理について一通りの流れを認識出来た一年でした。

すくすく広場を開催することが出来て、楽しんで貰えました。今後も続けつつルール性のあるゲームをしてみるなど変化を持たせていくみたいです。

今後は体育館内の事業だけでなく、さらに他の場所にも出向いて活動の幅を広げていきます。



期間:2022年4月～継続中

出身:山形県米沢市

趣味:ラーメン食べ歩き

オペラ・バレエ鑑賞

特技:山形ステッチとして

アーティストもしています

＼ひとことコメント／

樹の成長を見るのが楽しい！



主な活動内容

- ・果樹農業(さくらんぼ・桃・ぶどう)研修・作業
- ・稲作と枝豆の研修・作業
- ・山形かわにし豆の展示会でクロスステッチのワークショップ開催
- ・農山漁村発イノベーションビジネススクール受講
- ・FMNCVラジオ デアタコ協力隊出演

▼ ペットの羊たち



クロスステッチ個展とワークショップ

11月18日～25日、フレンドリープラザギャラリーで山形ステッチの初めての個展を開催しました。

11月26日・27日、東京赤羽岩淵「山形かわにし豆の展示会・宿場町まるしぇ」でクロスステッチのワークショップを行いました。



感想と今後の展望

農業研修生として活動しての1年は私の人生の中で1番充実した年になったと感じています。ほぼ毎日が始めて行う作業で戸惑う事もありましたが、少しづつ慣れていったと思います。

残りの2年で新規就農に向けて具体的に考えをまとめ、立派な農業人として生きていけるようになりたいと思っています。

さくらんぼの摘蕾

紅秀峰はとくにたくさん蕾をつけるので、蕾を摘みます。花を咲かせる時に樹は体力を使うので、咲かせる花の数を抑えるための作業です。



さくらんぼの人工受粉

蜂によって受粉が行なわれるので、日当たりが悪い所や受粉樹が近くになかったり、風向きを考慮して人工受粉を行います。



さくらんぼの摘果

実が1.5センチくらいになった頃に行います。実を大きく甘くするための大変な作業です。



収穫と箱詰め

早朝4時30分から収穫を開始し、朝休憩後からパックに詰める作業です。

